# 「しずまって神を知る」詩篇を味わう③

詩篇４６篇１～１１節

今日は宗教改革者マルチン・ルターが愛した詩篇 46 篇を読みます。

「ローマ教皇に罰を赦す権威はなく、福音のみが神との間に正しい関係を与える」ことをルターが公然と主張したことによって、宗教改革が始まります。しかし一修道士のルターにとってそれは当時の世界全部を相手にすることであり、やがて彼は精神的にも肉体的にも瀕死の状態になります。

そのような彼の歩みを支えたのが、この詩篇 46 篇でした。彼はこの詩をもとにした「神はわがやぐら」という有名な賛美歌を生み出します。

## ① 神は、「神」である

“神は　われらの避け所　また力。苦しむとき　そこにある強き助け。
それゆえ　われらは恐れない。たとえ地が変わり　山々が揺れ海のただ中に移るとも。
たとえその水が立ち騒ぎ　泡立っても　その水かさが増し　山々が揺れ動いても。” 1-3

“そこで弟子たちは近寄ってイエスを起こし、「先生、先生、私たちは死んでしまいます」と言った。イエスは起き上がり、風と荒波を叱りつけられた。すると静まり、凪になった。イエスは彼らに対して、「あなたがたの信仰はどこにあるのですか」と言われた。弟子たちは驚き恐れて互いに言った。「お命じになると、風や水までが従うとは、いったいこの方はどういう方なのだろうか。」” ルカ8:22-

## ② 神は、私たちとともにおられる

“万軍の主はわれらとともにおられる。ヤコブの神はわれらの砦である。”7,11

“神は　…苦しむとき　そこにある強き助け。1
“God is ..... a very present help in trouble.” 1、KJV

## ③ しずまって、そして、神を知る

“やめよ。知れ。わたしこそ神。わたしは国々の間であがめられ　地の上であがめられる。” 10
“静まれ、私こそが神であると知れ。国々に崇められ、全地において崇められる。”10,協会共同訳
“Be still, and know that I am God; I will be exalted among the nations, I will be exalted in the earth.” 10, NIV

<話し合ってみましょう>

・「しずまる（やめる）ことによって神を知る」ということについて、自分の体験があれば分かち合いましょう。

・神は、神であるなら「全知全能」つまり「すべてのことを知っておられ、すべてのことを行うことができる」方でなければなりません。そして、そうであるなら、神は絶対的な存在であり、唯一であることになります。しかしこの世の中には多くの神があります。なぜでしょうか。